
青い海とさざなみと

上木らみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青い海とさざなみと

【Nコード】

N0568A

【作者名】

上木らみ

【あらすじ】

都のまん中にあるホールの1室に、人知れず幽閉された人がいた。長い間1人で幽閉生活を送っていた彼の元に、1人の少女が現れた。
・・。

ゆらりゆらりと、ドレスの裾が揺れる。

水面で踊っているかのように、足下に波紋が幾重にも重なって
て・・・

夢でも見ているような気分。

いや。

多分、夢を見ているんだと思う。

だって・・・今僕は、都の真ん中にいるんだから。

都のまん中のホールの・・・ホールのある建物の明かりのつかない
空き部屋に、ひっそりと佇んでいるんだから。

そう。

僕はこの部屋から、逃れられない。

僕にかけられた、とても強力な、呪いのお陰で。

解く方法はただ1つ。

“彼女”を幸せにする事。

僕に呪をかけた魔女の娘を、幸せにしてやる事、それが・・・唯
一の解放の術。

「ねえ、あなた何をしていらつしやるの？」

背後からの声に、ハッと振り向いた。

軽くウェーブのかかった黒い髪、何もかもを吸い込んでしまうよ
うな黒い瞳と、シンプルで洗練されたデザインのほのかに水色がか

ったドレス。真っ白な雪のような肌をしたその人は、暗い部屋の中で、ぼうつと光っているように見えた。

「・・・じつとしているんですよ」

「あらそうですの。では、何故じつとしていらっしゃるの？」

何も映す事がなさそうな、ガラスのような瞳。

凜と整った顔が、僕を見ていた。

「・・・やることがないので」

「何故？むこうでは舞踏会が行われているのに・・・あなたは行かないの？」

「残念ながら、僕はこの部屋からは出られないですよ」

「まあお気の毒に！」

その人は言った。

「こんな小さくてなんにもない部屋で・・・いつからここにいますの？」

「・・・ご覧の通り、この部屋には窓がありません」

「ええ、確かに」

「ついにながらに時計さえないので、僕は時を知る術がないのです。とても長く、果てしなかった気がします」

その人は黙った。そして、口を開いた。

「お食事は？お食事で時間を知る事ができるでしょう？」

「・・・食事は・・・おそらく、当分しておりませんね」

その人はうーんと唸って、何か閃いたように扉に向かった。

やはり、僕が怖いのだろうか。

「良い事を思いましたわ！」

「・・・それはどんな・・・」

「とりあえず、わたくし、イリシアル＝アンリ＝ウィニアよ。あなたは？」

「・・・僕は・・・ウォリス・・・」

本当は、本当の名前を言いたいのだけけど。

魔女に封印された僕の本当の名前は、僕の記憶の中にはない。
ウォリスは魔女が僕に与えた名前。
僕の名前を封じる為の、名前。

「ウォリス・・・それだけ」

僕は、この名前が嫌いだ。
魔女よりも、なによりも。
僕を、ここに閉じ込める、僕の名前。

「ウォリス・・・だけですの？御家族は？」

「・・・さあ？・・・分からない・・・」

「・・・ごめんなさいね・・・わたくし・・・」

「いや、僕自身あまり気にはしてないから、気にしないでください」
「でも、ウォリスという名前、わたくし、好きだと思いますわ」

僕はなにかにハツとした。

何なのかは知らないが。

彼女・・・イリシアルは、扉まで行くと振り返った。

「何か食べ物を持ってきますわ。今晚は立食ですの」

「そんな・・・迷惑でしょう」

ウォリスが言うと、イリシアルはいいえと首を横に振った。

「わたくしは全然迷惑じゃないわ。むしろ誰かを助けられるなんて、とても幸せ。」

ついでに明かりを持ってきますわね」

イリシアルはドレスの裾をゆらして、去った。

僕はそのまま、じっとしていた。

魔女、あなたの娘は・・・僕が何もしくなくても、幸せになっていました。

僕はどうやったら、自分で幸せになれる彼女を幸せにできますか。

新たに、僕に課せられたこと。

幸せな人を、幸せにする事。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0568a/>

青い海とさざなみと

2011年1月9日02時10分発行